

会 議 録

第3回地域の学校教育のあり方を考える会

地域の学校教育のあり方を考える会

事務局 多可町教育委員会教育総務課

第3回地域の学校教育のあり方を考える会 会議録

■日時 令和2年10月14日（水）午後7時30分～午後9時10分

■会場 ベルディーホール会議室

■出席者 29名／29名（敬称略）

・会長 宮崎 信彦 ・副会長 橋本 衛 ・副会長 伊藤 竜太
・委員 藤原 恵美 多方 正行 西田 修 熊田 勝彦 足立 浩之
畑中 重信 白石 典之 堀口 善弘 中 孝浩 橋本 行広
寺尾 元基 足立 宗貞 藤田 貴久 植田 美香 朝妻 香織
笹倉 祐子 安平 吉孝（安平りつ子代理）藤田 佳織 菅家 知子
長澤 高意 竹中 裕貴 神崎 進吾 谷尾 秀伸 荻野 学
吉田 重徳 足立 徳昭

【事務局】

・教育長 岸原 章
・教育担当理事兼教育総務課長 宮原 文隆
・学校教育課長 藤本 志織
・学校教育課主任指導主事 吉田 勇二
・学校教育課副課長 届木 豊和
・教育総務課副課長 高橋 敏
・教育総務課課長補佐 山本 聡

■傍聴人 3名

■議題

- (1) 次第3（1）会議録等について
- (2) 次第3（2）小・中学校での現状の課題と問題点について
- (3) 次第3（3）子どもたちの望ましい教育環境について
- (4) 次第3（4）望ましい教育環境を実現するために

■会議結果

- (1) 第2回会議録が承認されました。
- (2) 小・中学校の現状の課題と問題点について協議しました。
- (3) 時間の都合上、次回協議します。
- (4) 時間の都合上、次回協議します。

■会議の経過

次第 1.

(事務局)

開会

定刻となりましたので、ただ今から『第3回地域の学校教育のあり方を考える会』を開催いたします。

資料の確認と注意事項

会議を始める前に、資料の確認と注意事項がございます。

○資料の確認

○注意事項

- ・会議作成のための録音
- ・会議録は委員承認の上、後日ホームページで公開
- ・傍聴希望者への注意事項

次第 2.

(事務局)

会長あいさつ

それでは、次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。
次第2でございます。会長あいさつをお願いいたします。

(会長)

みなさんこんばんは。夜分お疲れの所集まっておいただきましてありがとうございます。先週は台風14号でひやひやしましたが、逸れてくれましたので安堵した次第です。それから今月の『たか広報』に「これからの教育を考える」ということで特集しています。これによりまして、住民のみなさんが、子どもさんをお持ちの方は今の現状がわかりますが、それ以外の方にとっては、「えっ、今こんなことになっているの」と感じてもらえれば、今後の子どもたちのための議論に役立つのかなと思っております。前はワークショップ形式をとり、大変多くの意見をいただいております。今日は、まとめた資料によりまして、意見に肉付けしていきたいと思います。お互いにより深く意見交換をしていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしく申し上げます。

(事務局)

ありがとうございました。

出席者数の確認

本会議は、設置要綱第6条第2項により、本日の出席者は26名であり過半数を超えておりますので、この会議は成立していることをご報告申し上げます。(その後3名到着され、出席者29名となる)

<p>次第 3 .</p>	<p>議事</p>
<p>(事務局)</p>	<p>次第 3 . 議事でございます。</p>
	<p>ここからは、要綱第 6 条の規定によりまして、宮崎会長により進行をお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいたします。</p>
<p>(議長)</p>	<p>それでは、ここから議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。</p>
	<p>会議の公開について</p>
<p>(議長)</p>	<p>議事の前に、会議の公開、非公開についてお諮りいたします。</p>
	<p>今回は特別非公開とする事項はないと思いますので、公開会議といたしますが、よろしいでしょうか。</p>
	<p>(異議なし)</p>
<p>(議長)</p>	<p>異議がないようですので公開会議とします。</p>
	<p>傍聴の許可について</p>
<p>(議長)</p>	<p>次に、本日の傍聴希望者ですが、事務局、傍聴希望者は何名ですか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>傍聴希望者は 3 名でございます。</p>
<p>(議長)</p>	<p>特に傍聴要領に違反されている方もございませんので、設置要綱第 9 条の規定により許可したいと思いますですが、ご異議ございませんか。</p>
	<p>(異議なし)</p>
<p>(議長)</p>	<p>異議がないようです。それでは、傍聴を許可したいと思います。事務局、注意事項をお願いします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>はい、傍聴者への注意事項につきましては、お渡ししております「傍聴を希望される方への注意事項」をご確認ください。また、本日の会議資料及び第 1 回、第 2 回の会議資料を傍聴用として準備しておりますので、ご覧ください。</p>
	<p>ただし、お持ち帰りはできませんので、よろしくお願い致します。必要な方は、教育委員会のホームページから資料をダウンロードしていただきますようよろしくお願い致します。以上です。</p>

(議長)	傍聴人の方々におかれましては、会議の運営にご協力をお願いいたします。
次第 3.	(1) 会議録等について
(議長)	始めに会議録の承認についてです。事務局お願いします。
(事務局)	はい。本日みなさまからの議事録承認書の提出をいただきました。残り 3 名の方の承認書をいただき、一部誤字がございましたので、修正させていただいた上で、ホームページで公開したいと思います。ご協力ありがとうございました。
(議長)	それでは、みなさんからの承認が全て出揃った上で、本会で承認したいと思います。よろしいでしょうか。
	(異議なし)
(議長)	それでは、事務局、この内容でホームページでの公開をお願いします。
次第 3.	(2) 小・中学校での現状の課題・問題点について
(議長)	それでは、次第 3 (2) に入っていきたいと思います。前回のワークショップでたくさんの意見をいただきました。今後の進行としては、議事の (2) で小・中学校での現状の課題・問題点を整理した上で、(3) その課題や問題点から見える子どもたちの望ましい教育環境とは何かを議論していただきたい。そして、(4) 望ましい教育環境を実現するためにはどのような方策があるのかを考えていただくような進め方で進行したいと思います。
	本日はまず、(2) 現状の課題や問題点を追加や修正等、みなさんから忌憚のない意見をいただきたいと思います。
	それでは、ご意見をいただく前に、前回ワークショップの意見等について、事務局がまとめていますので、この資料の見方についての説明をお願いしたいと思います。事務局お願いします。
(事務局)	はい、資料についてご説明いたします。
	まず【資料 1】をご覧ください。前回のワークショップでみなさんにまとめていただいたものです。全て合わせて 119 件の意見や疑問が出ました。
	【資料 2】をご覧ください。いただいた意見は付箋と同じ色にしています。青が共通、緑が中学校、黄色が小学校です。どの区で出た意見かがわかるように文頭に「中、加、八」を付けて整理をしております。

そして、これを大きく分けて3つに分類しました。1つ目、左側、赤枠で囲ってありますグループは、「小・中学校での課題・問題点」です。現状で小・中学校において気づかれていること、今後不安に感じられていることなどがここに該当します。

次に2つ目、右上です。青枠で囲ってあります「子どもたちにとって望ましい教育環境とは」です。みなさんの希望や願望などが書かれてある付箋を集めてあります。この希望や願望から子どもたちにとっての望ましい教育環境とはどのようなことか、求められている学校や学習環境はどういったものなのかがわかると思います。

そして、3つ目、右下ですが、緑色で囲ってあります、「望ましい教育環境を実現するためには」です。そのためにはどうしたらよいのか、具体的な方策についての意見をまとめてあります。

この大きく分けた3つの分類は、我々の頭の中の整理として、現状の課題や問題点から望ましい教育環境が見えてきたり、希望や願望などから学校に求められている、期待することが見えてくるのではないかと考えてあります。そして、その望ましい教育環境を子どもたちのために整えるにはどういった方法があるのか、どの方策が一番良いのかを順序立てて考えていただくために、この流れで大きく3つに分類をいたしました。

その分類の中には、いくつかのグループがあります。例えば、赤枠内の「小・中学校の課題・問題点」の中には、「少子化・クラス替え・人間関係」のグループ、「学習」や「行事」、「部活動」、「通学」などがあり、青枠内の「子どもたちにとって望ましい教育環境とは」とほぼ同じようにグループ化することができました。緑枠内の「望ましい教育環境を実現するために」では、具体的な方策についてグループ化しています。「学校統合」、学校統合に対する「場所」や「通学」についてのグループ、「小中一貫」、「統合しない・小規模の良さを活かす」など同じような意見をグループ化しています。

次から資料がいたり来たりしますので、【資料2】を半分に折って下さい。

そして、【資料3】をご覧ください。まずは課題や問題点について再整理をいたしました。複数の同じ種類の意見をまとめて、一言で言い表せるような大きなタイトルを付けました。【資料2】の左側になりますが、赤枠で囲ってあります意見を集約したものが【資料3】の左側になります。そして、【資料3】の右側には、現状の課題や問題点に関する、みなさんが疑問に感じられていることと、現時点でお答えできる内容を記載しております。

【資料4】をご覧ください。同じように、「子どもたちの望ましい教育環

境とは」として、複数の同じような意見をまとめて大きなタイトルを付けました。【資料2】の右上になります。青枠で囲っています。「子どもたちにとって望ましい教育環境とは」のご意見をまとめたものが【資料4】の左側になります。【資料4】の右側には参考として、「多可町小中学校規模適正化基本方針」を掲載し、下側には検討していくための流れと生徒数の今後の推計を載せております。

【資料5】をご覧ください。望ましい教育環境を実現するためのご意見についても、同じように、意見をまとめて大きなタイトルを付けております。【資料2】の右下になります。緑枠で囲っています。「望ましい教育環境を実現するために」のご意見をまとめたものが、【資料5】の左側でございます。右側には質問と回答を掲載しております。表の見方についての説明は以上です。

(議長)

事務局から、資料のまとめ方と見方についての説明がありました。それでは、【資料3】の『小・中学校での現状の課題・問題点』について意見交換をしたいと思っております。この点について、追加意見や異なる意見がありましたら発言いただきたいと思います。

ちなみに、本日は次第3(2)課題・問題点の再整理を行った上で、次へ移りたいと思っております。本日は、そこまでいければと思っております。どなたでも結構ですので意見を申し上げます。

(委員)

前回に全国的な事例をお知らせ願っていたと言っていたがそれが1点と2015年に文科相が出しております『公立小学校・中学校適正規模・適正配置等に関する手引』からこういう流れになっていると思うのですが間違いはないですか。

(事務局)

はい。間違いありません。

(委員)

これを読んでいましたら、最後に「学校統合を選択しない場合」の4番目に「学校を当該地域コミュニティの存続や発展の中核的な施設と位置づけ、地域を挙げてその充実を図ることを希望する場合」は統合を選択しないということが載っていましたので、何が言いたいのかと申しますと、議論する中で、統合する、統合しない選択肢もある、両方出させていただいて、それをメリット、デメリットなど流れを出していただいて議論する必要があるのではないかと考えています。全国的にいろんな統合しなくて良かった例もありますので、そういう例も聞きたかったと思います。

(議長)	<p>はい。進め方のところで、こちらから説明をしていたら良かったのですが、統合をする、しないと言うことではなしに、現状どういう課題があるのかということと、それに対してどうすれば良いのかという話を先にやっていきまして、その裏返しの子どもたちの教育環境をどうしたら良いのかを考えていきたいと思っていましたので、統合ありきではなしにやっていきたいのですが。</p>
(委員)	<p>学校の適正化として文科省が出していますので、最終的にそっちへ行く流れになっていくと思うんです。全国的なところを見ていましたら。結局、いろんな問題点・課題点を出して、最終的には、資料にも中学校の規模適正化を文科省が出していますのでね、そういうふうな選択へ向かうと思うので、そういう議論をするには、結論から先に入って申し訳ないと思うのですが、うまくいっている例、また統合したけれどもちょっと残念だったなという例などを聞かしていただけたらなと思っております。</p> <p>それから、小中一貫というのはいいなと思っていたのですが、そういうのもセットになって、国が統廃合を進めている中の一環であると聞いて、それは選択肢にないかなと思っていました。</p> <p>もう一つは、学校の適正化というふうに出ていますけども、文科省は12学級から18学級の標準規模があって、適正規模は自治体で決めてくれと言っていると思うんですね。そういう中で、やっぱり地域に応じた適正化やそれが困難な場合の小規模校の充実等に関して、「保護者や地域住民と合意形成を図りつつ、地域の実態を踏まえた方針や基準を定め、具体的な検討を進めていくことが期待されます」とありますので、統合に賛成とか反対といっているのではなくて、議論する場合にそれに対する逆の方針がありましたら出していただいて、それを知った上で議論していく、それで、そういう選択肢もあるんだなということも地域住民として知っておくことも、結果的に統合となったとしても、そういうこともあるんだなと、知らせることも必要なんじゃないかなと思って発言しています。</p>
(議長)	<p>はい、ありがとうございます。先ほどの質問の中で全国的な統合の例などは事務局として何か回答出来ることはありますか。</p>
(学校教育課長)	<p>全国的な事例につきましては、事務局で情報収集をしている状況です。また、文科省が出しています手引きの件ですが、平成27年1月に文科省から「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が出ております。ただ、多可町につきましては、この手引が出る前の平成24年</p>

4月に「多可町小中学校規模適正化基本方針」を出しておりました、その基本方針の中で多可町として望ましい学校規模のあり方を示しております。

繰り返しになりますが、小学校では複式学級が生じない、中学校では1学年2学級以上を確保できることが出ておりました、そして、その進め方ですが、このように適正規模を示していますが、学校規模の適正化を図る際に、考える手順としまして、「地域の学校教育のあり方を考える会」を立ち上げまして、地域のみなさんの意見を十分反映しながら、学校統合するのか、小規模校で残していくのかという議論をすると定めておりました、この会で議論を進めていくこととなります。今日の会議としましては、事務局として、前回の会議を深める内容となっておりますので、全国的な事例につきましては次回以降で、資料が整い次第お示しいたしますので、ご理解いただきたいと思います。

(委員)

すいません。適正規模というのは2007年に文部科学大臣の渡海紀三郎さんが、学校適正規模については、学校教育法施行規則では、12学級以上18学級以下という規定があるが、これはあくまで標準であって、地域がどう考えるかが非常に大事とおっしゃっております。ということは、初めから適正というのではなくて、多可町とか八千代とか地域の実態を踏まえて、適正というクラス数が出てくるかと思うのですが、認識の違いかもしれないのですが、ここにいきなり適正となっているのがわかりにくかったのですが。

(学校教育
課長)

法令の中では標準という表現になっております。多可町では学校規模適正化方針ということで、当時、標準の学級数を踏まえまして、多可町として望ましい規模がどうなのかということ協議した結果として、『多可町小中学校規模適正化基本方針』があるのですが、まず、この方針を基に「地域の学校教育のあり方を考える会」で、今後子どもたちにとって望ましい教育環境はどういった環境なのかを議論していただきたいと思っております。

(議長)

はい、ありがとうございました。今いろいろと質問がありましたけれど、考え方は同じだと思うんですね。学校の統合や小中一貫校などの議論を先にやりますと、例えば場所のこと、通学のこと、教育スタイルのことなどで、どうしても議論がそこに集中します。

ここでは、そういったことは気になりますが、ここは一つ忘れていただいて、多可町は、あなたは、子どもたちをどう育てたいのか、多可町の学校はどうあって欲しいのかという想いや願いみたいところから、い

ろいろ議論していきたいと思っております。そしてそれを達成するための手段として、学校はどうあるべきかということを中心に考えるという順番でお願いしたいと思っております。

統合に賛成であるとか、反対であるとかという議論から、極端なところから始めていきましたら、どうしても視野が狭くなってしまいますので、統合ありきではなしにですね、ここはもう、子どもたちをどう育てていきたいのか、それと今多可町の子どもたちはどうなのかをいろいろ議論していただいて、それで、最終的にどうやという形、先ほどの全国的な事例や統合をしなくても良いところがあるよ、多可町はそれでいこうというのなら、そういう結果になると思うのですが、やはり先に今の現状をもう少しお互い共有しながら、この多可町にあってはどうすればいいのか、議論していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

他にみなさんの方でご意見がありましたらお願いします。いきなり難しい話が出ましたので、後が出にくいかなと思っておりますけど、前回の感想とか資料に載っている意見に対して思うことなどあればご発言をお願いします。

(委員)

私自身、今回区長という立場で携わることになったんですけど、子どもが中学校を卒業してから20数年経っていて、ほとんど学校に携わっていない状況の中で、今の小学校・中学校がどうなっているか、子どもたちがどういった状況に置かれているのかなど状況把握の所が、私自身きちり掴めていないということがあります。その中で、ワークショップの資料を見ていると、全て繋がっていると思うのです。なぜかと言いますと、児童生徒がどうしても減っていくというのが基にあって、児童生徒が減るからクラスが減る、クラス替えがなかなかできない、人間関係が固定化してしまうなどずっと繋がって行って、クラスが減るから最終的に先生方も減らざるを得ない、そうすると中学校での専門的な教科の先生が減っていく、クラブ活動にも影響するなど、何か連鎖していくような、その根源というやはり児童生徒が減っていくことではあるんですけど、そればかりはどうしようもない部分があって、その中でどうするのかということはこの会議でやっていくんだと思っておりますけど、私自身にまだついて行けていないのが率直な感想です。

(議長)

ありがとうございます。私も同じです。そんな状況からスタートしています。

(委員)

生徒が減少すると専門の先生が減るということはすごく問題だと思います。学校にも問題ですし、教育のレベルが下がるということは、ここに

住みたいなと思う人も減るのではないか。やはりある程度良い教育が受けられる所に人が集まってくると思いますし、まちづくりの面でもそういうことは大事なのかなと思います。あと部活のことですけども、今の部活の状況はわからないのですが、僕たちの時代は全員強制的に入部しないといけなかったし、重きを置いていましたけど、今の状況はわからないですけど、別になくてもいいのではないかと少し思っています。他にもいろいろ選択肢があるし、個人的な意見になりますが、常識に囚われない考え方も必要なのかなと思います。

(議長) はい。ありがとうございました。委員から良い教育が受けられる所に人が集まってくるのではないかとの発言がありました。それからクラブ活動についてですけども、無くてもいいのではないかとの意見で良かったですかね。

(委員) 無くても良いと言うことではなくてあっても良いのですが、すごい重要なことなのかなとは個人的には思います。他の学習の面や社会性の面、行事の面と比べてそんなに大事なのかなと思います。

(議長) ありがとうございます。では学校の先生方は今の意見についてどうですか。

(委員) 単純にいろんなことを考えて、自分の中学校が無くなるのは嫌だなと思いながら聞いていました。部活動に関してですが、新聞に載っていたのですが、部活動の運営に関して文科省が指針を出しました。令和5年からと載っていましたが、土曜、日曜の部活動は地域に委ねるといいますか、地域の方を主体としてやっていく、そこで学校の先生が指導したいのであれば登録をして地域で活動していくというような事が書いてありましたが、どこまでその方針が決まっていくかはわからないのですが、今言われたように部活動だけで(望ましい教育環境を)選択するというのは、中学校で部活動はかなり重要な部分ではあるのですが、危険な部分があるのかなと思います。資料を見まして一番に思うことは、3中学校が一緒になる時に、地域の方が寂しがらるだろうなど。だから残して欲しいな、でもこの人数だったら学校の中でも活気が無くなるだろうなど思いながら、逆にこれがどんどん進んでいった時に、多可町が一つの中学校になってずっと進んで行っても、行政の中で、例えば西脇市と合併することは無いのかと考えたり、だからどこの線で止めるのかといいますか、個人的には今の学校も大好きですし、地域の方も保護者の方も素敵な方々ですし、卒業生が帰ってくる学校があったらいいなと思います。

一番の問題は地域の方がどう思われるのかなと心配な部分があります。学校としては人数が多い方が活気があって、活動も充実すると思うので、人数が増えてくれればと思うし、加美中では来年度単学級が出来るのですが、あと1人か2人生徒が増えれば2クラスになるのにな、人がいっぱい移り住んでくれればうれしいなと思います。

(議長) はい、ありがとうございます。先ほど委員から部活動はそんなに重要かと疑問を投げかけられていますが、中学校の先生方がいかがですか。

(委員) 部活動は、昔は全員入部制で、全員がどこかの部活に入らないといけないということでした。それから、クラブチームでサッカーをしたりとか野球をしたりとかする生徒が出てきて、そういう流れもあって今は全員入部制はどの学校もとっていません。希望入部制で、各学年一人二人部活動に入っていない、クラブチームにも入っていない生徒がいます。この部活動が中学校の教育の中でどのくらい大切さを占めているかという、ひょっとしたら、クラスの、勉強は別として、情緒的なところであるとか、友達関係であるとかなどを見てみますと、50%以上は部活動の割合が占めているのが今の中学校の現状です。担任の先生とは一年ごとの繋がりですけど、部活動顧問の先生とは3年間の繋がりです。中学校は教科担任制ですので、担任といっても自身の教科の時と給食の時と朝と帰りですけど、部活動の先生とは土日、丸一日一緒に過ごしたりとか、お互いに信頼関係も出来てくるし、困ったこと、それから自分がこんな風に伸びていきたいなどいろんな相談もできるので、今の段階では、とても部活動に生徒指導上のことも含めて、依存している所は大いにあります。ただ、全体的な流れとしては中学校の部活動はやめて、地域の中の活動にしていこうという流れになってきているのは確かです。

(議長) ありがとうございます。学校の現状として報告していただきました。その他ございませんか。

(委員) 私も現役の皆様方とは温度差が相当あります。ですので、このような会議に参加するのも抵抗があるくらいです。実感が無く、人ごとのように感じています。先日のワークショップでは、失礼ながら、子どもの環境は、現役のみなさんが思われる、納得されるようにしていただければいいと思うのですが、よりよい教育環境ですね、そのより良い環境が一番難しい問題となっていく訳なんです。それに対してやはり、町の財政なのか、県の財政なのか、国の財政なのかわかりませんが、財政に不安が

ありまして、コロナの影響もありまして、助成金が大盤振る舞いな感じで、国も県も町もされておりますし、そういう思いがありまして、きっちり納得いくようにしてやりたいですが、財政面が不安だなと思いワークショップで書かせてもらいました。

(議長) ありがとうございます。今も温度差があるということでしたので、現役のPTAの方で意見をお願いします。

(委員) 部活動の事ですけども、かなり大きな課題があって、先生方も言われていたように、部活動が大事だということはみなさんわかっている、部活動が問題だ問題だということになっていると思うんですが、先日部活動の審判に行きまして、その中でいろいろと文句が出るんですけど、部活動は大事だということははっきりしているんですけど、いろいろ人が絡むことは、行政の努力が必要だとか、子どもを育てるには親の協力が必要だとか、中学校の統合をすることによって、また親の協力が、子どもの人数が足りないとか、またいろいろ問題が再燃したりするとか、統合するにはすごいハードルが高いなと思ったことと、やはり部活動は必要だと、やはり教育の一環であると、あいさつや礼儀正しさや仲間を大事にすることなど、そこが大事とわかっているから、みんな部活動に対していろんな意見を言っていると感じました。

(議長) ありがとうございます。部活動についての話がありました。

(委員) 私も難しいことはわかりませんが、部活動で子どもたちがしたいこと、できるような選択肢がある、あるいはクラス替えができる、そういう規模の学校があった方がよいと思います。でも、いくら先生方をこれだけスタッフを揃えました、部活動も充実していますということになっても、そこへ通うのにバスに乗って30分や1時間かかって通うようではね、いろんな時間の制約もありますし、例えば、念願のマイホームを建てて、仕事行くのに、朝5時に出て、夜11時12時に帰る、念願のものを手に入れても、代償が大きいと言いますか、通学とかに時間を取ってしまう、それと、近くに学校が無い所に人は残らないと思うんですよ。Uターンしようかと思っても、あの地域には学校が無いからやめとこかとか、逆にもっと便利なところに出て行こうとか、よっぽど過疎化が進むんではないかと私個人的に思うので、この学校教育にあり方も子どもたちを教える体制というのも大事だと思いますけども、子どもたちがいかに有意義な時間を過ごせるかとか、そういうことを考えていかなければいけない、行政との協力と言いますか、行政の方も考えていかなあかんの違う

かなと思いました。

(議長) ありがとうございます。中学校のPTAからお願いします。

(委員) 統合ありきの話ではなくて、小・中学校の現状の課題・問題点を話し合うワークショップでお話しされたんですけど、いざ全体の資料を見ると統合の話、統合に繋がる話が気になることが多くて、現状の課題・問題点という意見が少なかったのかなとぼっと見て思いました。部活動に関しては、いろいろあっても、嫌なことがあっても、良かったことがあっても部活動があって最終良かったなと思えること、学んだことたくさんあったので、部活動が出来る環境を与えてもらえるってことは有り難い事なので、今は全員が部活動に入るのは強制ではないので、それも選択肢の一つなので、やる子、やらない子がいてもいいと思いますが、私は部活動があって良かったと率直に思いました。残して下さい。以上です。

(議長) ありがとうございます。課題や問題点の意見が少なかったのではとの意見がありました。今の現状、課題や問題点、小学校、中学校その部分で何か追加意見などありましたらどなたかありませんか。

(委員) 感想ですが、地域に学校を残す、統合する、それぞれにメリット、デメリットがあって、どちらを選択してもデメリットの部分は必ずある。その上で、どちらかを選択する。今話が出ています、本当に子どもたちにとって望ましい学校は、教育環境はどんなものなのか、本当に悩ましい問題ですがそのあたりを協議していく必要があると思っています。

(議長) そのほかに何かありませんか。私自身資料を見る中で、みなさんの意見を聞く中で、小学校よりも中学校のほうが心配な感じがしています。中学校では1学年に1クラスの状態が、八千代中学校で今年出ているし、来年は加美中もそうなる。その後何年かすれば、中町中でもという状況になっている。それと小学校では複式学級が見えてくるのは、まだもう少し先かなと思うんですが。中学校の方が先に議論を進めていく必要があるのかなという感じがするんです。統合とかではなしに、子どもたちが、今年でも八千代中で1学年1クラスになっている、それから来年度には加美中でも1学年1クラスが出てくる、そういう所はクラス数が減ると先生の数も減ってくるということもありますので、それでいいのか、それとも文科省や町の方針によらず、多可町で他と違う方法を考えることができるのか、小学校では、子どもはどんどん減っていることは確かなんです、複式学級となればまだ少し先かなというイメージを持った

のですが。そのあたりについてご意見などありませんか。

(副会長)

今、小学校が問題なのか、中学校が問題なのかという話を会長はされましたが、第1回の資料によりますと、中学校においては各学年で2クラスが維持できない状況は、今はもう八千代中で始まっています。資料では、来年の1年生は2クラスとなっていますが、1クラスになるか2クラスになるか微妙な状況で、八千代中でいいますと1年生、2年生共に1クラスになるかもしれないというような状況で、どちらが問題かというときにまさに中学校が大変な状況だと思っています。純粋に子どもたちにとって魅力ある学校とは、通学に時間がかかるとか地域に学校が無くなるかを抜きにして、子どもたちにとって何が魅力なのかなと考えたときに、まず一つ、先ほど部活動の話が出ましたけれども、この部活動というのは、子どもたちにとってはとても大きな存在です。入部してもしなくてもどちらでもいいんですけど、本当に一生懸命やっています。これは外のクラブチームに入っている子も一緒だと思います。本当に打ち込んで一生懸命やっている。それで最後の大会が終わったときには、例えば負けたときに涙を流すとかは、それを物語っているんです。それほど熱くなって頑張っている部分、それがやはり選択肢が狭まってしまう、選ぶ種目が無くなっていく、あるいは自分の学校だけで1チームが作れない。たまに合同練習してやっどできる。こういう状態を考えると子どもたちにとってこれは魅力ではないなというふうに感じます。それから、一番心配するのは学習面です。規模がだんだん小さくなってくるとどうしても、教員ですから、学習面が心配で一人の教員がいろんな教科を掛け持ちしながら、自分の免許外というところで授業をしなければならない。そうなってくると、やはり学習の力の保障というところにとっても不安が残るなというふうに思います。純粋に子どもにとって何が魅力なのかなと考えますと、部活動がたくさんあってどれにしようかなとなるととても楽しいことだと思うし、たくさん子どもたちがいる中で生活出来ることは本当にいろんな個性の子と出会って、その中で切磋琢磨できて楽しいだろうなと思います。自分を振り返ったときに、小学校から中学校で「大きな学校になったな」とすごく思いました。そして、中学校から高校へ行くと「いろんな子がいるな」と、こうやって集団の中でいろんな勉強してきたことを振り返ってみると、純粋に子どもたちにとって何が魅力なのかなと考えたときに、やはり人数が多いということはそれだけですごく魅力なのではないのかなと思います。いろんな要件やいろんな不安などを無視して、子どもたちにとっても考えると私はそう思っています。

(議長)

はい、ありがとうございます。他みなさんの方から何かありますか。

(委員)

今、八千代中学校がだいぶ話に出てきましたので。この会では八千代中学校では全学年が単学級になるのは5年先となっていますが、来年八千代中学校に入ってくる1年生が、特別支援学級を除くと40人になりそうだと聞いています。と、いうことは、単学級で入学してくることとなります。そうしますと、教員の定数が12人のところが10人となり、10人のうちの1人が教頭で、あと国、社、数、英、理、音、美、体、技術、家庭とくるんですけど、今は技術の教師がいないんですが、来年体育も男女混合で1人で見てもらわないといけないのかな、3学年とも。それから、今八千代中学校は7学級ありますが、これは通常学級が5学級と、特別支援学級が2学級ある。特別支援学級を担当してもらおうと思えば、例えば国語の先生が1人だけだったら、国語の授業を持ってないんです。特別支援学級に関わる時間が大半でなければいけないというのがあるので、限られた先生しか特別支援学級を持ってない。今も複数の教科を教えるという話がありましたけれども、技術だけではなくてそれ以外の教科もひょっとしたら、免許外で教えることになる。そこで教育委員会とも相談して、力になってもらわないといけないんですけど、例えば、教頭が授業を持つんですけども、例えば、国語の教頭が来たからといって、全クラスの国語を受け持つ事はできません。教頭は激務ですので、持てても4時間、5時間ぐらいの所です。西脇市は教頭は授業を持っていないという現実もありますので、できるだけ仕事を軽減するとなると、5教科(国社数英理)以外の免許を持つ教頭がいたら、授業を持ってもらえるのかなとか、2教科免許持っている先生もいます。家庭科と数学を持っている先生もいますので、複数免許を持っている教師を配置してもらおうとか、いろいろな相談に乗ってもらわないと、5年後ではなく来年学校運営が円滑に行えないというのが現実です。いろいろな工夫をしながら来年一年運営できたらと思っています。でも先生自体は多いんです。職員室には25人おります。しかし、正規の教員が少ないのです。校長、教頭以外に12人しかおりません。来年に向けてだいぶ知恵を絞りながらやっていかないといけないと思っています。

(議長)

はい、ありがとうございます。中学校の現状についてのお話しをいただきました。他小学校の方とか課題とかどうですか。

(委員)

今、みなさんの意見を聞かせていただいたんですが、地域の者としては、子どもたちの帰りとか朝になったらおはようとか、さようならとか

いう声をかけてもらうんですが、学校が無くなってくるとそういうことがだんだん減ってきて、地域の者としてはすごく寂しさも感じます。ただ今、先生方の話を聞いていて疑問に思うことは、統合なしで、例えば子どもがいくら減ろうが、先生を確保できて、学級も複式学級とかにせず、そんな事ができるのか。率直な意見を。もしかしたら、会長に結論を先走っていると怒られるかもですが、そういう可能性は少しでもあるのか、国は方針があるけど、多可町としてはこういう方針が出来るという可能性があるものなのか、どうしても先生方が子どもの人数にあわせて減ってしまう。専門的な先生に限られてくる、当然特別支援学級の子どもたちは専門的に見る必要がある、そうやってくると、いや、多可町は子どもは少ないけれども先生は確保できるんですとか、そういう可能性のあるのならそっちの方法も考えられるのでしょうか、全くそれは無理ですということになれば、そこら辺のことが非常に大きな問題になってくると思うんです。また部活動の話に戻るんですが、私は部活動は非常に大事だと思います。クラスが1つだけになって人間関係が固定化されるのが心配だとされるように、部活動は1年生から3年生まで、上下関係も覚えると思うんです。先輩後輩という間柄というのは非常に大事なことです。小学校の間は割と上下関係ははっきりしていませんが、中学校になると上下関係を覚えて、社会に出る1歩目のような、そこが大事だと思うので、そうすると部活動も大事ななと思います。でも一番思うのは、先生の数とかそこらへんがどうなるのかは疑問に思っています。

(議長)

はい、ありがとうございます。今の話は、教育委員会どうですか。

(学校教育
課長)

多可町の今の財政状況から考えますと、例えば正規の先生の数が10人のところを14人配置して、専門の教員を確保しようとした場合、プラス4人分につきましては、町財政で負担することとなります。前回お話ししました定数部分の教員については、県の費用で雇う教員となるのですが、定数を超えて配置する場合には、これは町費になります。多可町としましては、町費で配置もしております。小学校であればスクールアシスタントということで、担任の補助として教員の免許を持った方にお越しいただいて、補助的な役割をしてもらっているんですが、担任が出来る正職員として雇用した場合、イメージとして、年齢にもよりますが、社会保険料とか年金など雇用者負担分も含めると1人7~800万、年齢によっては1000万を超える費用が必要となってきます。一つ一つの学校で4人を、それも将来にわたって確保できるかといったら非常にその部分は難しいというのが現状でございます。なかなか市や町の財政

で教員を追加配置している、国の基準以上に増員して配置しているところはほとんどなく、どこも国や県の基準に基づいて配置しているのが現状です。

ただ、町では小学校においてスクールアシスタントということで、補助的に入っている教員であったり、今年度から学習支援員として、一般的に学習のつまずきが見られるといわれている小学校3年生のクラスにおいて、町費で教員の免許を持った教員OB等を配置しております。中学校になるとどうしても様々な要因から学校に行きにくい生徒、不登校になってしまう生徒もいますので不登校支援など、人数については近隣に比べましてもかなりの人数を配置しています。ただそれでも授業が出来ない、現場の課題の解消にならないのが現状です。

(議長)

はい。質問の統合なしでの可能性があるかないかについて言えば、多可町の今の財政からでいけば無理と言うことですか。

(学校教育課長)

教員を追加配置することは非常に難しいと思います。ただ、だから統合しなければならないということではなくて、クラス数が減れば、教員の配置数も減っていくので、免許外で指導する教員が複数となることは否めないのかなと思います。学校が希望する免許を持った教員を配置することや複数の免許を持った教員を配置する要望をもらっても、人事の面からすれば難しく、例えば、町内で一つでも大きな学校があれば様々な免許を持った教員がいて、そこから要望に沿った教員を選んで配置することができますが、小さな学校同士では学校が要望する教員が多可町の学校にいないということが生じてくるのが現状です。

(議長)

はい、ありがとうございます。先ほどの質問に対しては、教育委員会で事例等をまとめていますので、その資料を待って議論したいと思います。事務局の方から、質問の内容で回答出来る場所があればお願いします。

(事務局)

資料3ページをご覧くださいと思います。

小中学校での現状の課題・問題点についての右側をご覧ください。いただいております疑問に対しまして、不十分ですが回答いたします。

クラス編成についてですが、先ほども学校教育課長が申し上げたとおり、国の指針を変えて、町独自でクラスの人数を変えてクラスを増やしていくことは、教員の追加配置等は財政上難しいとの説明をさせていただきました。

次に、人間関係についてでございますが、いじめ、こころと体のアンケート、心の教育についていくつか質問がでています。いじめのことにつ

きましては、できる限りホームページで公開をしておりますが、当然個人情報保護もございますので、非公開となっているところが確かにございます。その点がありますが、学校ではこころと体のアンケートを中心に進めて行くことと第3者機関による評価・検証を現在行っているところでございます。

次に教科担任制についての質問ですが、この件についての決定事項はございません。ただ、県の制度を活用して、音楽や理科など教科担任制を以前から取り組んでおります。最近報道機関等でこの件に関して記事が出ておりますので、もう少し注視していきたいと考えております。

特別支援教育についてのご質問ですが、「サポートファイル」といまして、学校とお子さん方、保護者とを繋ぐシステムを活用するように取り組んでおります。

それと、未就学児童保護者へのアンケートについてですが、当然アンケートについては、未就学児童のいる世帯だけでなく、保護者や地域など、どの範囲で、こういった形で実施するのかなど、この会でご協議いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それと、先生の負担という点についてですが、先ほども申し上げたとおり、スクールアシスタントやスクールサポートスタッフなど、十分ではありませんが、町費で配置をしておるのが現状でございます。最近神戸市で調査されていましたが、メールをたくさん教育委員会から学校に送っていることについて、先生の負担が大きくなっているのではなど報道がありましたが、町には、国県、各種団体からの調査依頼が大変多く来ますので、特に教頭先生の負担が大きいと感じています。その点はもう一度精査しまして、教職員の負担軽減に取り組んで参りたいと考えております。

それと、通学についてです。下校のバスが有り難かったという意見をいただいておりますが、申し訳ないのですが、コロナウイルスの感染拡大防止策のための特別措置でございまして、緊急時のみとなっております。

それとまちづくりについてのご意見がありました。移住される方は年配の方ばかり。もっと若者が住みたくなる補助はありますかということですが、定住推進課で調べますと町外からの転入者ですね、過去五年間で0才から19才の方で19名いらっしゃいます。現在移住に対する問い合わせも増えていると聞いています。令和元年度では8名程度の移住がありました。1クラスが増えるような大幅な増というのは難しいのかなと思います。以上でございます。

(議長)

はい、ありがとうございます。小・中学校の課題・問題点というところ

での疑問について、事務局から回答をいただきましたが、これに関する質問等はございませんか。

(質問なし)

(議長)

小・中学校の課題・問題点については、たくさん意見もでていますが、議論したのが、部活動のこと、学習のこと、一部地域の方々の意見が少しあったというところですが、その他ございますか。

(委員)

前回の感想として、この会が中学校の統合に向けての話し合いなのかなと思ってしまって、加美区の小学校も少なくなってきたので、そのへんも考えていただけたらと思いました。この会に出席するにあたって、私のお友達のお母さんからも意見をたくさん聞くんですが、他の地域から来られているお母さんたちは、統合に全然問題はないのではないかという意見を持っておられて、やっぱり競争とか都会のようにしてほしいと思っておられる方が多いと感じました。でも、加美区で育った私としてはやっぱり地域性とか田舎だからこそ、田舎の良さを深めたいなと思ったり、守れるところは守りたいと思ってしまって、母親からすると多可町で交わってしまうと、核家族が増えているので、保護者の方の多様化というのもあって、保護者の方もいろんな方がいらっしゃるし、子育ても多様化していますので、自分の子どもがそこに入ったときに適応できるのかどうか、頭ではわかっているけど、統合されることが望ましいとわかっているけど、不安はすごく大きいなと思っています。通学とかいろいろ話し合われていく中で、子どもが少なくなった分高齢化も進んでいくと思うので、高齢の方が車を運転されるということも多くなってくるので、自分の子どもをいかに守るかということも課題かなと思っています。

(議長)

はい、ありがとうございました。今の意見の中で、お母さん方は小学校の統合は問題ないということでもよかったのかな。統合は絶対反対だとか、お母さん方の意見としてはどうでしょうか。

(委員)

そうですね。たくさんのお母さんに声をかけてみたのですが、小学校については、あまり反対の声は聞けなかったです。やはり地域性というのもあって、中学校となると、わかっているけれど、できるだけ反対したいという声が多かったです。

(議長)

中学校ですか。

(委員)

中学校はです。それぞれ私たちもわかっていて、私たちが育った環境を、子どもたちにも多可町として展開させたいという気持ちもあるんですが、自分が加美区で育ったが故に、その殻を破れないということではないのかなと思います。都会から嫁いでこられたお母さんたちは、早く統合した方がいいんじゃないかという意見が多くて、この問題にこだわっているのは、その地域で育った保護者がこだわっているのかなと感じました。

(議長)

はい、ありがとうございます。小学校の統合については反対される方は少ないけれども、中学校統合は反対という意見があるということですね。

(議長)

今日もっとたくさんの意見を聞きたかったのですが、予定の時間となってしまいました。今日は小・中学校の課題・問題点ばかり議論していますが、一つ一つのテーマに対して意見を聞くことができていませんけど、ここについては次回も引き続き議論したいと思います。次回は、小・中学校の課題・問題点とそれから、子どもたちの望ましい教育環境とはどんなことかについても、今も意見が出ておりますので、そういう所も踏まえながら進めて行きたいと思いますので、またこの資料を見ていただいて話し合いたいと思います。毎回きっちりと答えを出していくのではなくて、全体的な意見を把握しながら、方向性を決めていきたいと思いますので、できるだけ多くの方の意見をいただきたいと思います。この件に関してどう思いますかなどお友達と話し合ったり、機会がありましたら『たか広報』の内容をどう思うか、現状はこうですよなど、相談していただいて、次回に持ち寄っていただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

今日のところは以上です。事務局、事務連絡をお願いします。

(事務局)

今日議論していただいた内容につきましては、資料3を加筆修正いたしまして次回ご提示したいと思います。

次回の日程でございます。少し議論の進みを早めたいなと思いますので、申し訳ございませんが、11月25日(水)午後7時30分から、加美区の交流会館で開催いたします。地図を添えて後日ご案内申し上げます。よろしくお願いいたします。

それでは、閉会にあたりまして、副会長より閉会のごあいさつをお願いします。

(副会長)

何が問題なのかを明確にすることが、話し合いをする上で不可欠なことだと思います。前回でた意見を、全てではなかったですが、前回よりは掘り下げて、もう少し詳しく問題点をみんなで考えられたことは、意義のある時間だったと思います。今日は遅い時間までありがとうございました。これで第3回の会議を終わります。ありがとうございました。

(終了 21 : 10)